

常磐海域におけるヤナギダコの生物特性

福島県水産試験場 水産資源部
平成19年度福島県水産試験場事業概要
報告書
分類コード 19-99-52000000

部門名 水産業—その他—タコ類
担当者 吉田哲也・佐藤美智男・岩崎高資

I 新技術の解説

1 要旨

ヤナギダコは本県底びき網漁業における水揚げ金額では、2002年以降常にトップに位置する重要種である。しかし、常磐海域における知見は少ないため、「いわき丸」トロール調査採集データ(2001～2007年)、標本船操業日誌データ(1990～2006年)、水揚げ物銘柄組成(2003～2007年)を活用し、資源状況や移動、成長、漁獲加入状況等の生物特性を明らかにした。

- (1) 常磐海域における資源状況は、底びき網漁業の操業データ解析から1999年頃が低位、2002～2006年が高位と考えられた。
- (2) 分布の中心は期を通し水深100～300mであるが、10、11月には水深200～300m付近、徐々に浅所に移動し1月以降は水深100m以浅へも拡大する季節的移動が認められ、この移動は冬春季の水温低下と関係が見られた(図1、2)。
- (3) トロール調査で採集されるX年春季の体重0.1kg未満群の成長を、体重、全長組成の推移から追跡すると、X+1年4月が0.1～0.5kg、8月が0.2～0.8kg、X+2年2月が0.5～1.1kg、8月が0.8～1.7kg、9月には群全体で1.0kg以上まで成長すると推測された(図3、4)。
- (4) 以上の推定成長と水揚げ物銘柄組成から、X年春季の0.1kg未満群はX+1年春季には成長の良いものから順次漁獲加入し、1漁期目のX+1年9月～X+2年6月は小、中型主体(0.3～1.7kg)、2漁期目のX+2年9月～X+3年6月は大型主体(1.0kg以上)で漁獲されると推測された(図4、5)。

2 期待される効果

季節的移動、成長等の基本的な生物特性が明らかになり、今後の調査研究の基礎資料となる。また、成長を明らかにできたことで、トロール調査における小型サイズの採集状況から漁獲加入水準、加入時期を早期に推定することが可能となる。

3 適用範囲

水産研究者

4 普及上の留意点

今後、トロール調査における小型サイズの推定分布量と水揚げ量との関係を明確にする必要があるが、2漁期にわたり漁獲の対象となっていること、同一年級でも体重差が大きいことを考慮した調査研究を進める必要がある。

II 具体的データ等

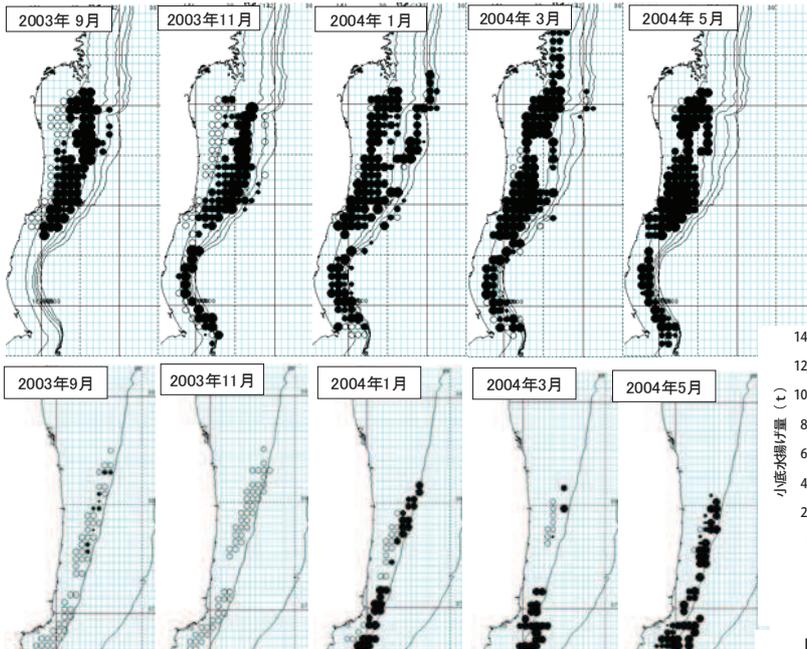


図1 CPUE分布図（上段：沖底+小底、下段：小底のみ）



ヤナギダコ

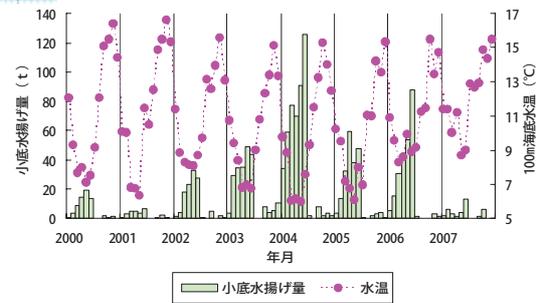


図2 小底水揚げ量と塩屋埼沖海底100m付近の水温との関係

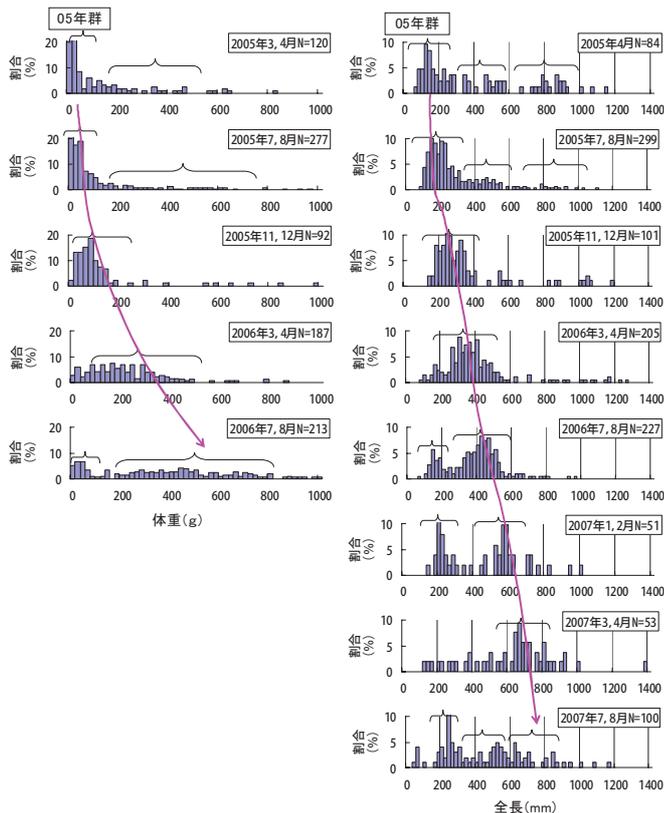


図3 トロール調査採集物の体サイズ組成
（左：体重20g階級組成、右：全長組成）

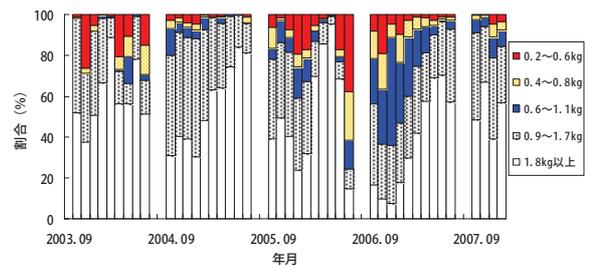


図4 水揚げ物銘柄組成（小名浜魚市場、沖底）

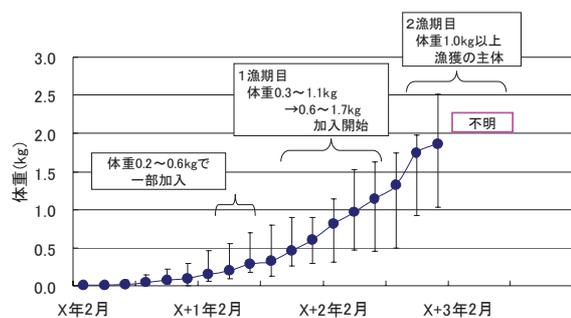


図5 推定成長模式図

III その他

1 執筆者

吉田哲也

2 主な参考文献・資料

常磐海域におけるミズダコ及びヤナギダコについて、福島県水産試験場研究報告書第11号、(2003).